

不定期通信

よつば通信

令和2年4月

コロナ
特集

世界的大流行

2020年はオリンピックで盛り上がるはずでしたが、2月頃から新型コロナウイルスの話題で持ちきりです・・・。
3月11日にWHOがパンデミック宣言をし、4月22日時点で世界の感染者数は247万人（WHO情報）。ちなみにSARSの時は世界で8500人程。MERSは2500人程で今回の新型コロナウイルスの感染者は桁外れです。

コロナ情報のまとめ

様々な情報が流れているのですが今回は「消毒」「マスク」「薬」についての情報を集めてみました。

①消毒液について

日本政府、WHO双方とも消毒は「アルコール系」を推奨しています。
「エタノール」と「70%イソプロパノール」のことです。
消毒効果、皮膚への安全性ともにエタノールの方が優れ70%が推奨。しかし60%代でも新型コロナウイルスに効果があるようです。

最近ではアルコールが手に入らず「次亜塩素酸水」が注目されています。

この消毒液自体は平成14年、日本で食品添加物として指定されました。消毒効果は次亜塩素酸ナトリウムと同等以上で手指消毒にも使われ、新型コロナウイルスにも効果があるという情報もあります。しかし4月11日時点での政府見解では「有効性は確認されていない」とのことです。

「次亜塩素酸ナトリウム」漂白剤などを0.05%に薄めて消毒に使うというニュースもありますが、厚生労働省のホームページを見ると手指ではなく身の回り物の消毒にという事らしいです。

②マスクの効果について

咳、くしゃみのある人がウイルスを含んだしぶきで周囲を汚染するのを軽減させる。
（ちなみに1回の咳で約10万、くしゃみで約200万個のウイルスを放出するらしいです。）
・予防のためのマスクは隙間がある為あまり意味が無い。
・鼻、又は顎が出ているマスクの着用は効果が無い。
という情報が「自治医科大学付属さいたま医療センター」に乗っていました。

自分が感染していると想定して周囲に感染さないためにみんなマスクをしよう！ということですね☆
では顎が出てしまうという噂のアベノマスクはどうなんでしょう？

ちなみに「マスク小さくない？」という疑問に対し厚生労働省のホームページでは
「洗濯可能で繰り返し使える布製マスクは、せきやくしやみなどの飛散を防ぐことや、手指を口や鼻に触れるのを防ぐことにより、感染拡大の防止に役立つものと考えております。こうした観点から、口と鼻がしっかりと覆われることが重要であり、今回配布する布製マスクは、縦9.5cm、横13.5cmの市販品の大人用のものであり、口と鼻を覆うために十分な大きさであると考えております。」と書いてあります。

③薬について

現在治療薬は無し。候補として

- ・抗エム薬（ロビナビル、リトナビル）
- ・抗インフルエンザ薬（アビガン）
- ・エボラ出血熱治療薬（レムデシビル）
- ・ぜんそく治療薬吸入ステロイド（シクレソニド）

があり現在治療効果や安全性を検証するための臨床研究中だそうです。

「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドVER2.1 2020.3.10」一般社団法人日本環境感染学会参照